

『あらしの前』『あらしのあと』

小学校高学年～

ドラ・ド・ヨンク作／吉野源三郎 訳
 岩波書店／1771 円(2 冊合計税込)
 【内容】オランダの片田舎に住むファン・オルト家では、医者のお父さん、赤ちゃんを産んだばかりのお母さんのもと、5 人のきょうだいが、平和で温かく楽しい生活を送っていた。ところが突然のナチス・ドイツ軍の侵入——恐ろしい戦争のなかで、信頼と愛情で結ばれていた家庭はどうなったのか。6 年後の『あらしのあと』に続く。



『彼の名はヤン』 中学生～

イリーナ・コルシュノフ作／上田真而子 訳
 徳間書店／1430 円(税込)
 【内容】第二次世界大戦末期のドイツ。17 歳の少女レギーネはポーランドの青年ヤンと恋に落ちた。だがナチスが「下等人種」とするポーランド人とつきあうことは大罪だった。逮捕され、監獄へ送られたレギーネは辛くも脱出し、さまざまな体験を、ヤンから学んだ広い世界のことを語り出す。



『ある晴れた夏の朝』 中学生～

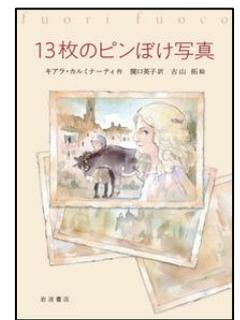
小手毬るい 著
 偕成社／1540 円(税込)
 【内容】アメリカの 8 人の高校生が、広島・長崎に落とされた原子爆弾の是非をディベートする。肯定派、否定派、それぞれのメンバーは、日系アメリカ人のメイ(主人公)をはじめ、アイルランド系、中国系、ユダヤ系、アフリカ系と、そのルーツはさまざま。はたして、どのような議論がくりひろげられるのか。そして、勝敗の行方は？



『13 枚のピンぼけ写真』 中学生～

キアラ・カルミネーティ作／関口英子 訳
 岩波書店／1870 円(税込)
 【内容】第一次世界大戦時の北イタリア。父と兄たちが戦場へいったあと、13 歳のイオランダと妹は、母親とも離ればなれになってしまう。戦争が激しくなるなか、家族の秘密を知った姉妹は、祖母を探す危険な旅を決意する……。もつれた家族の糸をほぐし、生きる力をつかみとっていく少女の感動の物語。

イベントあり



『アルメニアの少女』 小学校高学年～

デーヴィッド・ケルディアン作／越智道雄訳
 評論社／1980 円(税込)
 【内容】二十世紀初頭、「今世紀最初のジェノサイド」として、ナチスのユダヤ人虐殺と比較される、トルコのアルメニア人大虐殺が行われた。この嵐の中で成長する、けなげな勇気にみちた少女ヴェロン。作者の母の少女時代を語り、貴重な歴史の一頁を伝える。



『チャンス はてしない戦争をのがれて』 小学校高学年～

ユリ・シュルヴィッツ著／原田勝 訳
 小学館／1760 円(税込)
 【内容】『よあけ』や『あめのひ』など、日本でもよく知られる絵本作家、ユリ・シュルヴィッツ。ユダヤ人である彼が第二次世界大戦にまきこまれたのは、まだ 4 歳の頃だった。ナチス・ドイツ軍の攻撃のあと、ポーランドを脱出し、家族とともに各地を転々とした日々の生々しい記憶を、豊富なイラストとともに描き出す。



『アンナの戦争』 小学校高学年～

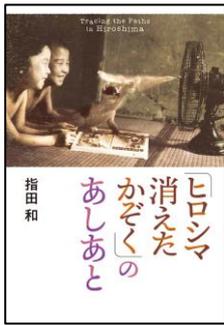
ヘレン・ピーターズ著／尾崎愛子 訳
 偕成社／1870 円(税込)
 【内容】小学 6 年生のダニエルは、戦争時代の話をしるためにアンナおばあちゃんを訪ねた。ナチによるユダヤ人迫害や、1 万人もの子どもたちを救ったキダートランスポートの活動などの史実をふまえ、緊張感いっぱい描かれたフィクション。



『父さんの手紙はぜんぶおぼえた』 中学生～

タミ・シエム＝トヴ著／母袋夏生 訳
 岩波書店／2310 円(税込)
 【内容】オランダに暮らすユダヤ人少女リーネケは、家族と離れ離れになり、遠い村の医者家にあずけられた。食料不足や病気の恐怖、身元を明かさぬまま仲良くなった友だち、そして危険をおかしても守ってくれた善意の人たち。奇跡的に保管されていた父親からの愛情あふれる絵入り手紙(フルカラー)とともに、戦争の日々がよみがえる。



<p>『ウクライナ わたしのことも思い出して』 ジョージ・バトラー著／原田勝訳 小学館／2200円（税込） 中学生～（ノンフィクション） 【内容】2022年2月に始まった、ロシアによるウクライナ侵襲。ジョージ・バトラーは渦中のウクライナにおもむき、市井に生きる老若男女の声を傾けた。彼らはなぜ、勇気と決意を奮いおこせたのか？ 現代の大きな悲劇についての証言を、フルカラーのスケッチとともにお届けする。</p>  <p style="text-align: center;">イベントあり</p>	<p>『ヒットラーの娘』 小学校高学年～ ジャッキー・フレンチ作／さくまゆみこ訳 すずき出版／1760円（税込） 【内容】ある日、通学バスを待つ間にアンナがみんなに話をはじめた。最初はただの「お話ゲーム」のはずだったのに、マークは「ヒットラーのむすめ」のことが心から離れなくなっていく。「もし自分がヒットラーの子どもだったら、戦争をとめることができたのだろうか」マークは自問自答しはじめる。</p> 
<p>『弟の戦争』 小学校高学年～ ロバート・ウェストール作／原田勝 訳 徳間書店／1320円（税込） 【内容】ぼくの弟は心の優しい子だった。弱いものを見ると、とりつかれたみたいになって「助けてやってよ」って言う。人の気持ちを読み取る不思議な力も持っている。そんな弟が、ある時「自分はイラク軍の少年兵だ」と言い出した。湾岸戦争が始まった夏のことだった…。人と人の心の絆の不思議さが胸に迫る話題作。</p> 	<p>『「ヒロシマ 消えたかぞく」のあしあと』 指田和 著 ポプラ社／1760円（税込） 小学校高学年～（ノンフィクション） 【内容】本書は1500枚以上あったアルバムの写真から絵本ができるまでを紹介し、戦前、戦中、戦後の家族や、亡くなった家族、生き残った家族、また今を生きる家族など、「かぞく」をキーワードに、戦争、平和、いのちについて問い続ける著者・指田和の活動のノンフィクション。</p> 
<p>『過去への扉をあける』 中学生～ ハンス・ユルゲン・ペライ作／酒寄進一 訳 童話館出版／1650円（税込） 【内容】ドイツの田舎町。生徒たちは町の「700年祭」に町の近代史の展示会を企画するが、その過程で町のあちこちにナチスの痕跡を見つける。市長や校長は展示会を妨害しようとして…。自国の負の歴史に向き合う人々を描く。</p> 	<p>『瓶に入れた手紙』 小学校高学年～ ヴァレリー・ゼナッティ作／伏見操 訳 文研出版／1650円（税込） 【内容】イスラエルに暮らす少女、タル。ある日、彼女の家の近くで、パレスチナ人による自爆テロが起こる。このテロをきっかけに、タルは、「憎しみ」ではなく「希望」を見出すために、パレスチナ人に手紙を送ろうと考えた。ガザの海で、瓶に入ったその手紙を受け取ったのは…。</p> 

※書籍の内容紹介は各出版社のホームページから引用しています。

【イベント予定】

『ウクライナ わたしのことも思い出して 戦地からの証言』刊行記念講演会

講師：原田勝さん（翻訳者）

日時：2025年5月14日（水） 午後6時～

※詳細は決まり次第お知らせいたします。ブッククラブ参加者には優先予約あり！

【こんな本もおススメ リスト】

定期でお送りする書籍には、ナルニア国スタッフがおすすめする「こんな本も読んでみて（仮）」が付きまます。絵本・ノンフィクション・一般書、様々な角度から戦争と平和について考えるヒントになる本をご紹介します。